

■ 留学レポート by 濱野逸人 (第1回)

皆さんこんにちは。現在、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴに留学の機会をいただいております、弘前大学泌尿器科の濱野逸人と申します。海外での研究に興味のある学生さんや、将来基礎研究を考えている方にとって、少しでもご参考になればと思い、レポートさせていただきます。

まず簡単に自己紹介をさせていただきます。[泌尿器科ホームページ](#)でも紹介いたしましたが、学生時代から海外で活躍する泌尿器科医に憧れていた私は、海外発表を精力的に行っている[弘前大学泌尿器科でのトレーニング](#)を選択しました。大学院での研究テーマが「糖鎖」という分野だったこともあり、この研究を先進的に行っている研究室へ留学する機会をいただきました。

私が研究に従事しているのは、サンディエゴ市街より車で約20分のラホヤ(La Jolla)エリアに位置する[サンフォード・バーナム・プレビス研究所\(Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute\)](#)です。人口約120万人の[サンディエゴ市](#)は米国国内でも1・2を争う人気の都市として知られています。カリフォルニア州の最南端にあり、程よく都会と自然・歴史が融合した都市で有名です。また、研究所がある[ラホヤ地区](#)は、アメリカ屈指のビーチ・リゾートとバイオ関連の研究施設が共存するとともにユニークな学術都市です。



ラホヤ近郊から望むビーチの景色

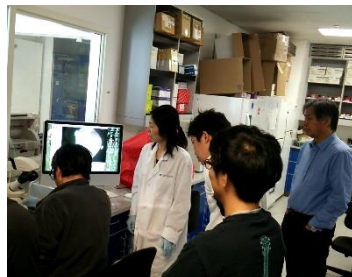
当サンフォード・バーナム研究所は数多くの研究室から構成されています。私が所属しているのは [Yu Yamaguchi](#) 先生が主宰する研究室です。Yamaguchi 研究室は 1988 年の [Nature 誌](#) や 2003 年の [Science 誌](#) に掲載された論文を初めとして、[グリコサミノグリカン](#) 関連で数多くの [エポックメイキングな発表](#) をしている研究室です。私は、自分の研究内容はほとんど赤子のようなレベルでしたが、[大山教授](#) の「行ってみましょう！」の励ましで勇気づけられ、留学することとなりました。

このサンフォード・バーナム研究所は、弘前大学泌尿器科の大山教授、[皇山講師](#)、[山本助教](#) が研究に従事した場所でもあり、先輩の名に恥じないようにと、強い覚悟での渡米でした。しかしながら、留学すると当然のことですが、強い覚悟も少しの自信も一瞬で打ち砕かれました。日本では多少の経験があったとしても、研究室では何も出来ない青二才、勉強と反省の毎日です。



マウス相手に奮闘する著者。うまくいかない事ばかりです。

Yamaguchi 研究室では毎朝 10 時より約 90 分のミーティングがあります。これは一般的な研究室に比べるととても高い頻度です。ミーティングの内容はとてもバラエティに富んでいます。実験の経過報告はもちろんですが、それ以外に様々なトピックが飛び出します。これは、「どんな内容からも、ふとしたきっかけに Discovery(発見)が起こりうる」という教室の方針に基づいています。このミーティングは、時に歴史・文化の話や他の医療分野の話にまで至り、非常にインスピレーションを受けます。



目の前のデータや画像を大切に、徹底的に議論を深めます。

アメリカの研究所に来て驚いたのは、定期的に”Happy Hour” と称する立食パーティーが開催されることです。17 時頃から開催され、誰でも気軽に立ち寄ってビール・ワインや軽食を楽しんで行くことができます。しかも無料です。私はこの交流が大好きで、毎回顔を出しています。他の研究室の研究者と交流することができ、ここは多様な国から研究者が集まっているため、様々な文化的背景の人と友達になることができます。



バーナム研究所・スクリプス研究所・ソーク研究所合同の Happy Hour

時折、研究者の友人を招いてホームパーティーを行っています。色々な背景の人の話を聞くことができ、泌尿器科に特化していた頭がリフレッシュされます。私は妻と子供を含む家族全員で渡米しましたが、異文化交流できるホームパーティーを家族も非常に楽しんでいるようです。余談ですが、子供の英語習得能力はすさまじく、あっという間に現地の小学校・幼稚園に溶け込み、カタコトの英語でコミュニケーションしています。



ピザ作り名人の Pablo(左、アルゼンチン出身)と The Taguchi family とのホームパーティー

このような素晴らしい機会を与えてくださった弘前大学泌尿器科、ならびに日々臨床に従事して下さっております関連施設の先生方に心より感謝申し上げます。この経験が少しでも本邦の医療に生かされれば、と考え日々精進したいと思います。また、最後まで読んで下さった方、誠にありがとうございました。